



石川町合併70周年記念

第41回（令和7年度） 石川町少年の主張大会

—今、私たちが伝えたいこと！—
作品集



主催 石川町青少年健全育成推進協議会

後援 福島民報社/福島民友新聞社/町民ニュース社/夕刊いしかわ新聞社

（石川町合併70周年記念ロゴマークの原画制作：石川中学校美術部）

《第4 1回石川町少年の主張大会作品 もくじ》

・『心が通い合う関係を』					
石川小学校	6年	曾根	奈歩	1
・『音楽は心に届く』					
石川小学校	6年	小木	千寛	3
・『メディアの使い方』					
石川小学校	6年	金澤	澄怜	5
・『自分らしくいること』					
石川中学校	3年	我妻	志音	7
・『子どもの「今」と「未来」』					
石川中学校	3年	曾根	秀祐	9
・『フードロス～私たちにできること～』					
石川義塾中学校	3年	渡辺	大翔	11
・『これからの社会に求められること』					
学法石川高等学校	3年	柳沼	孝郁	13
・『私の将来』					
県立石川高等学校	3年	アバハ	クリスティン ジョイス	15

《少年の主張大会の趣旨》

少子高齢化、国際化、情報化が急速に進み、環境が目まぐるしく変化する現代社会において、次世代を担う子どもたちには、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝えて理解してもらう力などを身に付けることが大切です。

少年の主張大会は、青少年にとってこれらの契機となることを期待するとともに、青少年の健全育成に対する町民の理解と関心を深めていただくことを目的として実施しました。

『心が通い合う関係を』

石川小学校 6年 ^{そね}曾根 ^{なほ}奈歩

私は、幼いころから動物が大好きでした。家で飼っていた猫のリゾットは元々野良猫でしたが、縁あって父が引き取り、二十三年間家族でした。

ある日、テレビの番組で、猫や犬を保護して里親を見つけるという活動を知りました。世の中にはこんなにもたくさん飼い主のいない猫や犬がいて、その多くは人間を強くけいかいしていることに、とてもショックを受けました。リゾットは、いつも人なっつく甘えてくるような子でしたので、人間に対して攻めきりだったり、おびえたりするような猫の様子を初めて見たときは、本当におどろきました。さわろうとするとかくしたり、後ずさりして人から離れようとしたり、反応は様々でしたが、みんなに共通していたのは、人をこわがり信用していないことでした。

最初はみんな愛情をもって動物を飼い始めると思います。でも、飽きてきちんとお世話をしなくなったり、乱暴なあつかいをしたりすることが、そういう子たちを生み出す原因だと思います。そうならないためには、一時の安易な気持ちで飼うことを決めない、最後まで責任をもってお世話をする覚悟があるか真剣に考えて決めなければいけないと思います。動物にも感情があります。人間と同じように気持ちを考えて行動することが大切だし、自分がされて嫌なことは動物にもしない。ぎゃくにどうすれば喜んでくれるかを考えることが大事だと思います。

リゾットが天国に行く前日、こんなことがありました。もう自力では立ち上がれないほど弱っていたのに、そばにいた母にゆっくりと歩いて近づき、いつものように前足をかけて座り甘えてきたというのです。父と出かけていた私は、送られてきた写真を見て、どこにそんな力が残っていたのだろうと信じられない気持ちでした。

「この姿勢でいると、絶対こう来るよね。」

といつも楽しそうに家族で話していたから、きっと最後の力をふりしぼって来てくれたのだと思いました。自分が大変な時でも、大切な相手のために頑張るということ、

私はリゾットから教えてもらいました。

私は、動物に対してだけでなく、人に対してもいつも優しい人間でありたいと思っています。人は無意識にでも色々な感情を抱きます。私の発した言葉で相手が嫌な思いをしないよう、ふだんから気をつけているつもりです。例えば、学校のたて割り班や部活動など下級生と行動する時には、接し方を工夫します。注意が必要な時ただ指てきするのではなく、優しく声をかけて教えてあげるように意識しています。また、家族の中でもそれは同じだと思います。私は家族には甘えて、まだ自分中心になってしまうところがあるので、これからは少しずつ成長したいと思っています。

常に相手の気持ちを想像してから行動に移すこと。それを忘れなければ、動物でも人でも心が通じ、よりよい関係をきずいていけると信じています。

『音楽は心に届く』

石川小学校 6年 小^{おぎ}木^{ちひろ} 千寛

私が初めてオーケストラの音色を生で聞いたのは、まだ三歳のころでした。姉が石川小学校の合奏部でトランペットを吹いていて、学校で開かれたミニコンサートを、母と一緒に聞きに行ったのです。当時私でも知っていた曲やディズニーの音楽が流れると、思わず体が動き、楽しそうに踊ったり手をたたいたりしていたそうです。その時の様子を、母がうれしそうに話してくれたのを、今でもよく覚えています。

しかし、私が小学生になった頃、世界中で新型コロナウイルスが流行し、石川小学校でも合奏部の演奏会が開かれなくなってしまいました。私の記憶の中にあった、あのワクワクする合奏の音色も、少しずつ薄れてしまいました。そんな中、二年生の三学期に課外活動見学会があり、私は姉が所属していた合奏部を見学しました。音楽室ではさまざまな楽器の音が響き、先輩たちが真剣な表情で演奏していました。その姿を見た瞬間、三歳のときに聞いたミニコンサートの記憶が一気によみがえり、胸が高鳴りました。「私もこんなふうに楽器を演奏してみたい！」という思いが心の中にあふれてきました。

三年生になったばかりの春、私はついに合奏部に入部しました。ずっと心の中にあった夢に一步踏み出したのです。入部してすぐに、どの楽器を選ぶかを考えました。最初は、姉と同じトランペットを吹いてみたいと思っていました。でもある日、テレビでタレントさんがヴァイオリンに挑戦している番組を見て、「私もあんなふうにひけるようになりたい」と思いました。そして、気持ちが変わり、私はヴァイオリンを選ぶことにしました。

初めてヴァイオリンを手にとったとき、その軽さにびっくりしました。練習を重ね、初めて一曲を最後まで弾けたとき、私は感動で胸がいっぱいになりました。校歌や大

会の課題曲が弾けるようになると、ますます音楽が楽しくなり、「もっといろいろな曲を弾いてみたい！」という気持ちがどんどん大きくなっていきました。

そして今年、私は六年生になり、合奏部に入って四年目です。今ではメロディーを担当するパートリーダーを任せられ、演奏を引っ張るコンサートミストレスにも選ばれました。自分の演奏に集中するだけでなく、後輩の手本となるよう、姿勢や音にも気を配る役割を任せられるようになりました。

私は音楽を通して、「努力することの大切さ」や「仲間と音楽を作る楽しさ」を学びました。そして「音楽は楽しむもの」という気持ちを、これからも大切にしたいと思います。

音楽には、言葉では表せない力があります。あの日のミニコンサートが私の心に火をつけたように、私も誰かの心に届くような音色を奏でられるように、これからも努力を続けていきます。

『メディアの使い方』

石川小学校 6年 かなざわ すみれ 金澤 澄伶

みなさんは、一日にどのくらいスマホやタブレットを使っていますか。今は大人だけでなく、子どももメディアを使うのが当たり前の世の中です。小学校では、一人一台タブレットが与えられ、授業で使っています。中には、家で、もっと小さいうちからスマホやタブレットにふれている人もいます。

石川小学校では、昨年度から毎週水曜日を「ノーメディアデー」とし、ゲームやスマホなどのメディアを使わずに過ごすことにチャレンジしています。しかし、実際はゲームやメディアに代わる楽しいことを見つけられずに、「ノーメディア」ができていない友達も多いように感じています。

スマホやタブレットは本当に便利です。特に、ユーチューブはとてわたしの役に立っています。一輪車の乗り方、逆上がりの仕方、レジンを使った小物の作り方などが、ユーチューブのおかげで分かって、できるようになりました。分かりやすく説明してくれるし、実際に見て学ぶことができるので助かっています。わたしは、ルービックキューブを簡単にそろえられるアプリも気に入っています。全面そろえることができる気持ちがいいです。

しかし、メディアの使いすぎには注意しなければなりません。長い時間ずっと見ていると視力低下につながるし、ブルーライトは睡眠の質を低下させます。学校でのメディアコントロールの学習では、長時間使って依存症になると、脳まで破壊されてしまうことを学びました。ゲームやSNSに夢中になり、集中力が続かなくなると、学力も下がってしまいます。また、情報モラルの学習では、使い方を間違えると、人間関係のトラブルや犯罪に巻き込まれることもあることを学びました。被害者にも加害者にもならないように、気を付けなければならないと思いました。

このようにメディアには良い面もありますが、悪い面もたくさんあります。メディアの使いすぎや、メディアでのトラブルを防ぐために、私は、家族と使い方のルールを決めてそれを守ることが大切だと考えます。私の家でのルールは、次の三つです。

① 寝る前は見ない。私は、寝る前にお風呂に入るので、お風呂に入ったら見ません。

② リビングで使う。宿題などのやるべきことが終わったら、家族の目の届く所で使います。

③ 課金しない。お金がかかるアプリは、使いません。

私はこれらのルールを守ることで、メディアを自分にとって役立つものにできています。

みなさんは、家族とルールを決めてメディアを使っていますか。ルールを決めたら、守っていますか。守っていない人は自分のためにぜひ守ってほしいです。ルールがない人はぜひ家族とルールを決めて、メディアを自分にとって役立つものにして下さい。

『自分らしくいること』

石川中学校 3年 あづま我妻 しおん志音

「これがほしい。」「これ買って。」「なんで買ってくれないの。」私が言ったことのない言葉たち。「欲しいもの買ってあげるよ。」と言われても「なにもいらない」と答えていました。小さい頃から周りに遠慮して、本当の気持ちを隠し続けてきました。今も、周りの人に素直に気持ちを伝えられないときがあります。

「これを買ってもらってお金の無駄にならないか。」「またいらないものを買うのか、と思われないか。」「よく考えると本当は使わないのかも。」などたくさん考えてしまい、結局断ってしまいます。子どもだからいらない物も買うし、子どもだから買って満足して使わないこともあるのに。多くのことを考えてしまい、思ったように自分の思いを表現できない私を、大人達は「子どもらしくない子ども」といいました。元気な子だけどなぜか存在感が薄い、自分のことを主張しない子だと。子どもなのだから大人に遠慮する必要なんかないということはよくわかっていました。しかし自分でも、「遠慮してしまう性格なのだから仕方ない。」と勝手に決めつけて本当の自分を隠しているような気がしていました。

「私らしい私ってなんだろう。」そんな違和感を覚えながら、中学二年生になりました。たくさんの中で悩んでいるときに担任の先生からカウンセリングの提案を受けました。先生の提案を受けて初めて自分の悩みについて相談しました。親しい大人にでも遠慮してしまうところや、常に他人の顔色をうかがってしまうこと、そしてこれからどういう自分でいればいいのか、カウンセラーの先生に全て打ち明けました。カウンセラーの先生は「今まで子どもらしくいられなかったんだね。でもこれからは子どもらしくいられると思うよ。」と私の気持ちに寄り添ってくれました。その後も何度か相談している間に少しずつ悩みが減っていきました。今まで言えなかった「これが

欲しい。」という言葉も前より少し言えるようになってきました。

私はこの経験から誰かに相談するだけで、気持ちがとても楽になることを実感しました。前まで誰にでも遠慮してしまう性格だった私も今ではあまり遠慮することをしなくなりました。人の顔色をうかがうことも減りました。素直になれることも増えてきています。私は誰かに相談するまでにとっても勇気がいりました。私以外の人でも勇気が出ずに相談をためらっている人もいると思います。しかし、その勇気を出した先には必ず自分のことをわかってくれる人がいます。私は一人で悩んでいる人を減らすためには、相談する勇気を持つことが必要であると思います。しかし、それ以上に相談しやすい環境を周りがつくってあげることが必要なのではないのでしょうか。

相談しやすい環境を作るために大事なことは、決めつけないことだと思います。私は周りが決めつけたイメージ通りに過ごしてきました。周りの大人が言う私でいなければならないと思っていました。しかしそうではなかったのです。誰もが、他人のイメージに縛られず自由に生活する権利があるはずです。皆さんも友人や家族の性格を決めつけないであげてください。その人には必ずその人が思い描くその人らしい姿があるはずです。ぜひその姿を見つけて認めてあげてください。きっとその人は今まで以上に明るい表情で生活し始めるはずです。

自分の思いを伝えることができるようになったその時から、私も私らしさを表現することができるようになりました。誰かが決めつけた自分ではなく、自分が思う自分であるために私はもう遠慮しないと決めました。そして今度は、誰かがその人らしく輝ける環境をつくっていきたいと思います。

『子どもの「今」と「未来」』

石川中学校 3年 曾根^{そね} 秀祐^{しゅうすけ}

みなさんは、ネグレクト、ヤングケアラーといった言葉を耳にしたことがありますか。これらは児童虐待などと同様、近年多く取り上げられている、子どもに関する大変深刻な社会問題です。自分と同年代、さらにはもっと幼い子どもがこのような境遇に置かれている現実があることを知り、とても心が痛み、複雑な気持ちになりました。そうした子どもたちをどうしたら救うことができるのか。子どもから大人に近づきつつある今だからこそ、考えられることがあるのではと思いました。

私自身はこれらの当事者ではありませんが、過去の辛い経験として、令和元年東日本台風での被災があります。自宅の浸水被害により、一夜にして私たち家族の生活環境は一変しました。当初の1ヶ月ほどは父の事務所で寝泊まりし、母は給湯スペースとカセットコンロで、食事やお弁当作りをしていました。仮住まいに移っても不便を強いられる毎日でした。そんな中、母が工夫して作ってくれた料理を食べる時間が楽しみとなり、苦しい状況でも前向きになることができました。食事は生きるために不可欠なものです。しかしそれだけでなく、おいしい料理を誰かと一緒に食べることで心が軽くなる、そう実感した経験でした。

そこで「食の大切さ」という視点から、私に関心を持ったのが、子ども食堂の活動です。

以前、家で子ども食堂の話題が出た際に、「家庭の負担を減らしてくれるありがたい存在だと思う。けれど、利用にはどこか遠慮や周りの目が気になる側面もあって、親としては複雑な思いもあるかもしれないね。」という会話がありました。確かに、私も悩みを誰にでも相談できるわけではありません。そして、自分の置かれている辛い状況を人には知られたくないという心情も理解できます。そういった気持ちのハードルが、支援の届き切らない一つの原因かもしれない、と感じました。

この問題を解消するために、私は「子ども食堂」という言葉から想像するイメージを変えていくことが重要であると考えました。子ども食堂の運営目的の一つに、「地域交流の場をつくる」というものがあります。食事を提供することだけに重点を置かず、自然と地域の人々が集まる公共の場とする。そうすることで周りの目が気にならず、利用しやすい雰囲気を作ることができると思いました。

現状、子ども食堂のほとんどはボランティアの活動に支えられています。助成金等があっても個人や法人団体だけでは経営が厳しいという実情があります。全国子ども食堂支援センターむすびえが2024年に行った調査では「物価上昇による影響を感じている。」と答えた食堂が全体の約8割。「運営資金・スタッフ・後継者が不足している。」と答えた食堂は半数以上となりました。これらを改善していくために、自治体と地域の人々が連携した運営としていく必要があると思います。国や県、市町村が主導となることによって、より子どもたちにとって安全で、安定的な活動が可能になります。そして、日常的に子どもが集まる流れが生まれ、より利用しやすい環境になっていくと思います。子ども食堂を、「地域の憩いの場」そして「子どもの居場所」として設置していくことが、不安を抱える子どもたちを支援するための一つの手段になると思います。

子ども食堂自体は子どもたちの抱える問題を根本的に解決するものではないかもしれませんが、食を通じて子どもを支え、心のより所となり、将来への希望を見出す一助にはなれると思います。さらに言えば、子どもの窮状を行政側がくみ取る場となり、より直接的な対策へと繋がることを期待します。

私には将来教職に就き、地域の子どもの成長に携わっていきたいという夢があります。全ての子どもが健やかに前を向き歩んで行ける。生まれた環境に大きく左右されることなく希望する未来を選択できる。そんな社会になっていくことを心から願っています。

『フードロス～私たちにできること～』

石川義塾中学校 3年 ^{わたなべ}渡辺 ^{ひろと}大翔

皆さんは嫌いな食べ物がありますか。食事を残すことはありますか。少しぐらいならいいやと思っているかもしれませんがこれは世界で大きな問題となっています。

本来は食べられるはずの食品が捨てられてしまうことはフードロスと呼ばれ、世界中に大きな影響を与えています。フードロスの主な原因には食べ残しや、売れ残り、皮を剥くときなどに身も削り過ぎてしまう過剰除去などがあります。フードロスによって無駄になっている食品は日本で年間472万トンとなっていてこれは日本人口で一人あたり毎日おにぎり一個分の量を捨てている計算になります。世界全体では年間約13億トンにもなっています。これを知り、私は食品ロスは本当に重大な問題であると改めて感じました。年に472万トンというのはとても無視できる量ではなく一人一人が意識してフードロスを減らしていくために努力していかななくてはならないなと思いました。

また、フードロスは地球温暖化とも密接に関係しています。まず食品を生産する段階で農業用機械を動かす時や農薬や肥料を使う時にエネルギーを使用します。次に、食品を輸送する時や加工、保管する際にもエネルギーを使います。最後に捨てられてしまった食品がごみとして処理される際に焼却、埋め立て処理される際にさらに多くの二酸化炭素が排出されています。このようにフードロスは地球温暖化に多大な影響を及ぼしています。フードロスが地球温暖化に与えている影響は全体の約8から10%と言われています。しかしこれは逆に言えばフードロスを減らすことができれば地球温暖化を弱めることにもつながるということでもあります。

他にも日本では貧困が問題となっています。国民一億二千万人のうち約二千万人、約六人に一人が貧困の状態で暮らしていると言われています。そんな中でフードロス

が多く発生しているというのはとても無視できない問題です。日本の人々が裕福に暮らしていくためにもフードロスには減らしていかななくてはならないなと思いました。

私たちができるフードロスの対策としては主に「買い過ぎないこと」「作り過ぎないこと」「食べ切ること」の三つがあります。これらを率先してやるのが大切です。他にもフードバンクやフードドライブ、子ども食堂などがあります。フードバンクやフードドライブとは企業や一般家庭などからまだ食べられるはずの食品を寄贈してもらい福祉施設や困窮世帯に食べ物を寄付する活動のことです。石川町ではファミリーマート石川町双里店でフードドライブを行っています。子ども食堂とは民間団体や地域団体が主体となり子供達に安価または無料で食事を提供する場のことです。石川町には子ども食堂が三ヶ所あります。こういったフードロスへの取り組みを町として大きく取り上げたり、学校などでも余った食品などを回収したりすると、より大きな対策となると思います。しかしこれらにも資金不足や人手不足といった問題点があります。こういった問題点をどう解決していくかもこれからフードロス問題に大きな影響を与えたいと思います。

最近私が行った飲食店では「こまめどり」というプロジェクトが行われていました。これは食べ放題のお店などで自分の食べきれない量を一度に持ってくるのではなく少しずつ確実に食べきれぬ量をとってこようというプロジェクトです。これを見て私はこんな考えを持ったお店が増えていくといいなと思いました。フードロスを減らしていくために一番必要なことは一人ひとりが意識して対策することです。自分には関係ないやと思って何もしないのではなく自分にも責任があると思って行動すること、それが一番大切なことです。自分もフードロスを減らそう、と思う人が増えてくれたらいいなと私は思います。

『 これからの社会に求められること 』

学法石川高等学校 3年 柳沼^{やなぎぬま} 孝郁^{たかふみ}

18世紀後半、手工業に替わる蒸気機関の発明によって、労働にかかるコストが大幅に削減されました。それまで手作業でしなければならなかったことが機械に任せられるようになり、頭脳を使う仕事の重要性が増していきました。人々に求められるものが体力から知力へと移り変わったのです。人々に対する価値基準の変化に伴い、知力を有することが大きなステータスとなっていきました。たくさん勉強して良い大学に入れば、大きな企業に勤められたり、社会的地位が得られたりするという考えが、今では当たり前のものとなっています。しかし、この前提は、ある技術によって過去のものになり始めています。その技術とは、AI、人工知能技術です。AIは人間より圧倒的に学習効率が高く、例えば弁護士になるために現行の法律を全て覚えるとすると、人間は多大な時間を要しますが、AIであれば一秒とかからないでしょう。AIは、単純なルーチンワークはもちろん、画像や動画、文章の生成など、さまざまな場面で活躍しています。技術の発展に伴い、AIができるようになることはさらに増えていくでしょう。力が必要な仕事が機械に代替されたように、知識が必要な仕事も徐々にAIに代替されています。そんな現代において、人々が必要とされているスキルは、いったい何なのでしょう。私はそれを、人と繋がる力だと考えます。

人間関係は単なる情報のやりとりではなく、相手の表情、声のトーン、沈黙の意味といった、言葉では表現しきれない微妙な要素に支えられています。こうした繊細な感覚を読み取る力は、人間にしかないものであり、人と繋がる力の一つです。また、人と繋がる力とは、単に親切であるということだけではありません。自分とは異なる考えや価値観を受け入れ、多様な人々と協力する力でもあります。インターネットの発達などにより、今までの社会よりも多種多様な人々に会う現代では、異なる価値観、

考え方をもち人々と調和する力が不可欠となっていくでしょう。この人とのつながりは、これからの時代の倫理を考える上で、非常に重要な要素です。AIは、膨大な量の情報を統合することにより、新たなアイデアを生み出すことにも長けていますが、そのアイデアを評価するのは人間の役目です。様々な価値観を持つ人々の間で出される意見を、総合的に判断して、最も良い選択をするためには、相手の感情なども含めて捉える力、すなわち人と繋がる力が必要であると考えます。AIの発達によって、今まで人間にしかできなかったことがAIに代替されるようになった現代だからこそ、人と人とのコミュニケーションはこれからますます重要になっていくでしょう。もちろん、AIや新しい技術を活用する力も必要です。しかし、それは人と繋がる力と矛盾するものではありません。AI技術の発展のなかで変わってゆく社会に必要なのは、人と人との正しく繋がることです。AI技術に対して、社会全体で付き合っていくことが、技術の発展が目覚ましい現代において、重要なことなのです。

これまで社会は、体力、知力と求める力を変化させてきました。そして今、新たに求められるのは、人と人とのつながりを大切にし、共に生きる力、人と繋がる力であると私は考えます。AIの進化によって変化する社会の中でも、人間だからこそ持つ力は確かに存在します。その力を発揮するためには、自分一人で完結するのではなく、他者と手を取り合い、共に考え、共に成長していく姿勢が求められるのです。人とつながり、支え合いながら共に歩いていく力。これこそが、これからの社会において最も重要視されるべき力なのではないでしょうか。

『 私 の 将 来 』

県立石川高等学校 3年 アバハ クリスティン ジョイス

みなさんには将来の夢はありますか。私は将来の夢が二つあります。一つ目は空港のグランドスタッフになることです。二つ目は外国にいる貧しい子ども達を助けることです。

一つ目の空港のグランドスタッフになりたいと思った理由は、私が小学生の時に旅行でフィリピンに行ったことがきっかけです。現地に着いて言語も土地勘も分からずとても不安な私にその時に空港にいたグランドスタッフの方が気づいて声をかけてくれました。その時に今まで不安だった気持ちがなくなりました。その方と出会ってから私も人の心に寄り添い人を助けることのできる存在になりたいと強く感じグランドスタッフになりたいと思いました。グランドスタッフになるためには、外国で起きている問題や文化を深く知ることが必要不可欠だと考えています。それらのことを学ぶために、私は大学に進学しようと思っています。大学に進学した際には、外国人留学生の生徒と直接交流し、語学力や文化と多様性を学びたいと思っています。もちろん、この夢を実現するにあたって苦戦することも沢山あると思います。例えば、様々な国の方と交流するにあたって多様な文化や考えに触れることになると思います。その際に私の考えとは異なる考えや文化に直面することもでてくるでしょう。しかし、視点を変えて異なる文化や多様な考えを理解していくこともグランドスタッフとしての必要な技術だと思います。視点を変えて相手の文化や多様な考えを理解していくことはとても簡単なことではないと思いますが、人の心に寄り添うことのできるグランドスタッフになるために努力していきたいと思っています。

二つ目の外国にいる貧しい子ども達を助けたいと思った理由は、フィリピンを訪れた際に貧困の差が激しいと思ったことがきっかけです。私が食事をしている時に、隣

に貧しい親子がいました。その時に私は何不自由なく好きな物を食べられているのに、一方で隣の親子は無心でお金を沢山の人にねだっている光景を目にして心がとても苦しくなりました。その後私がとった行動は、母と相談をしてその親子にお金を渡しました。私以外の現地の人達は、親子に目を向けることもなく、いつもと変わらない日常を送っているように感じました。その光景は日本では見ることのない光景だったのでとても胸が苦しくなりました。その時に私はこのように思いました。将来外国で生活に困っている貧しい子ども達が少しでも幸せな生活を送ることができるように私も何か力になりたいと。将来は自分で働いて稼いだお金を貧困の差が激しい国に寄付をしていきたいと考えています。募金ではなく直接現地に行って目で確かめて自分の手で救ってあげたいと思っています。この夢を実現するためには、世界に目を向けて、どれくらい貧困な国があるのか貧困の子ども達をどのようにしたら助けられるのかなどを研究していくことが必要になってくると思います。こういったことも視野に入れながら大学で学んでいきたいと考えています。

これらの夢を実現させることはとても大変だと思いますが、夢を実現させるための予習として今私が通っている石川町の魅力であったり課題点など身近なところから目を向けていくことも将来の夢に繋がる第一歩だと考えています。今のうちから自分ができることは何かをよく考え、行動に移していくことで将来に役立つことのできる知恵や知識を手に入れることができるはずです。現に私が今通っている石川高校の生徒や先生方もとても優しく良い方ばかりなので、そういった力になってくれる方々からも知恵をもらいながら、必ず私の夢を実現させたいと思います。



石川町合併70周年記念

第41回（令和7年度）

石川町少年の主張大会作品集

石川町青少年健全育成推進協議会

〒963-7852 石川町字関根 165 石川町教育委員会生涯学習課
電話 0247-26-2566 F A X 0247-26-4992

